

愛ランドまつやま

発行：松山離島振興協会 / 文責：会長 田中政利

【お問い合わせ先】

事務局長 俊成雅直 Tel：997-2189 メール：airando-matsuyama@rhythm.ocn.ne.jp



しまのわ2014のフィナーレを飾るクロージングイベントでしまのわポーズをキメる広島・愛媛両県知事。瀬戸内海と島がつかないだ両県の和を大勢の参加者が心に刻みました。瀬戸内1号線を基軸に、両県の連携は今後も続きます。

しまのわから広がる
輪、和、わっ！

広島県、愛媛県の両県と、島嶼部・臨海部を有する市町が力を合わせ開催した「しまのわ二〇一四」のすべてのイベントが終わり、先日の松山市の発表によると、松山市の観光行政はかつてない集客と収入を記録したとのこと、引き続きこの勢いを衰えさせることなく、市全体の勢いに転化させるべく、市は第二、第三の矢を準備しているとのこと。それは、来る二〇一七年、平成二十九年のえひめ国体開催へ向けた準備の取り組みであることはもちろん、同時に同年が「子規・漱石生誕一五〇年祭」の年であることも重要な位置付けでしょう。加えて先般、京都―広島―松山のルートが新たに「新・ゴールデンルート」と命名されたことを受け、これまで松山市が進めてきた「瀬戸内・松山構想」により拍車がかかり、私たちの住む島嶼部の担う観光的役割の要素も大いに強まるものと思います。宿泊地である道後や番町に加え、日帰り観光に適した三津浜や北条、久谷、砥部、そしてミニトリップのできる忽那諸島。これらの魅力が渾然一体となってこそ、真の松山観光であり、これまでの宿泊だけの松山から一歩脱却し、さらなる成長を見込める新たな観光戦略となるのではないかと思います。

合併から十年、第二ステージを迎える忽那諸島は、しまサミットしまはくしまのわ、といった一連の企画で培ったおもてなしのノウハウを遺憾なく発揮し、自らの地域の宝磨き、魅力づくりにまい進していかなければなりません。私たち松山離島振興協会も、平成十八年四月十五日の発足以来、今年で丸九年が経過し、第十回の総会以降は十年目の活動期に入ります。忽那諸島の次の十年を見据えた、新たな飛躍の礎を確実に積み上げていた、と考えているところ、そのためには、地に足の着いた、それでいてどこか高みをめざすような活動指針を掲げ、みなさまに絶大のご協力をいただきながら、同時に島外の応援団を巻き込んで、「瀬戸内・忽那諸島発展計画」なる位置付けの活動を繰り広げたいと考えています。

農林水産まつり・食育フェスタ・こなもんサミット 三大祭りがアイテムえひめに集結



平成二十七年二月十四日、十五日の両日、アイテムえひめで第九回「まつやま農林水産まつり」が開催されました。農林水産まつりの前進は、小野地区で開催の「農業指導センターまつり」。その名のとおり、元々は農業の収穫を祝うお祭りでしたが、平成十七年の市町合併後、島嶼部を市域に迎えた新松山市が、平成十九年二月、満を持して投入したのが、第一回 農林水産まつりでした。以来、松山の冬の風物詩として定着した農林水産まつり。当初から当協会の田中会長が実行委員会副会長を務め、島の特産品が一手に購入できる機会として、多くの島応援団を得てきました。

そんな食と食材の祭典に、学びの要素を取り入れた祭りが、平成二十年からスタート。お隣り会場で開催の「まつやま食育フェスタ」がそれ。今回で七回目を迎えた食育の祭典は、食の大切さ、噛むことの意義、栄養バランス、取り合わせ、松山の伝統食、保存食や非常食など、食と栄養、効果等食のすべてをじっくり



りと体感できるような趣向を凝らした学習イベントです。私たち松山離島振興協会の前進である市の提言型の広聴事業「みんなのまつやま夢工房」の後輩グループ「夢工房・食育」も食育フェスタに欠かさず出展する団体。今回は松山農林水産物ブランド品での「銀鱈いりこ」を使い、よく噛んで食べることの大切さを伝えるブースで啓発に取り組みました。

さて今回、三つ目のお祭りとして堂々登場したのは「えひめご当地こなもんサミット二〇一五 in 三津浜」というB級グルメの一大祭典。屋外の広場全体を使ったこの壮大なイベント企画は、投票による「こなもん王座決定戦」でもあり、二日間、県内各地の有名こなもんがしのぎを削ります。そこにエントリーしたのは十三品。開催地 三津浜地区代表の「三津浜焼き」、そして忽那諸島からは中島の新名物「みかんうどん釜玉」「じゃこかつ」が双璧か。ほかに、石窯ピザやコロケ、たこ焼き、オムそばなど、こなもんの王道がズラリと顔を並べ、どれも美味しそうで投票に迷ってしまいます。手軽で手早い軽食の



第1回「こなもんサミット in 三津浜」のグランプリに見事輝いた三津浜焼きの行列。両日も、列が途絶えることはありませんでした。

提供は、これまで会場内で食べ物の売り切れに悩まされてきた農林水産まつりにとってまさに救いの手。来場者にお腹の満足を与え、おみやげにも事欠かないことが、来場者の満足感を高めたことは間違いないところ。今後も三本の矢を束ね、決して折れない企画を継続していただけたらと思います。

ところで気になるこなもん王座の行方は。やはりそこはホームゲームの意地。地元代表の「三津浜焼き」は、事前のWeb投票でのトップの座を本戦でも譲ることなく、見事、初の栄冠を手に入れました。出店者の平成船手組は、この日のために大勢の焼き手を養成、チーム力で勝負をかけた。また、準グランプリに輝いた「みかんうどん釜玉」は、みなさんご存知の中島小浜の山崎八生さんの渾身の作。改良に改良を重ねた珠玉の逸品が多く支持を得、Web投票四位からの大躍進となりました。なお、三位は久万高原町の石窯ピザでした。おめでとございます。

だれもが大好きで、いつもどこかで、知らず知らずのうちに口にしているこなもんの魅力を一堂に集結させたナイスな企画。次回の開催が今から楽しみですね。

— 小富士山登山道丸太階段敷設作業 —

大勢の登山客が「小富士山」をクチコミする?!



忽那諸島にとって、平成二十六年最大のトピックスといえば、やはり小富士山登山道の整備ではなかったでしょうか。少なくとも、わが松山離島振興協会にとっては、もつとも出来難い出来事の最右翼として、皆の心と記憶にとどまっています。

去る平成二十六年十月四日、登山道の完成を記念する式典と登山イベントをこなし、引き続き、船越の会場で「ごしま船踊り競演」を開催することができましたのも、興居島の氏神様である船越和氣比賣神社と、小富士山頂にお祀りの石鎚大権現のご加護であることは間違いないところだと思います。その日に

だいた上諏訪土建さんには、今なお、感謝の念に絶えませぬ。しかし、素人協会の委託ゆえ、いざ雨後の登山となると、丸太階段の間合いが少々気になっていたところでした。そこで協会は、さらなる資材の投入を決断。施工法は上諏訪土建さんに相談の上、自力での階段敷設に臨みます。でも、上諏訪土建さんの協力あつての現場作業なことはお察しのとおり。現場監督の芝原さんの指示の下、材を運び、鋏で整地し、かけやを振り、インパクトを放ちます。しばし、プロの世界を垣間見た面々ですが、要所要所はもちろん芝原さんの監督。優秀な監督は優秀なプレイヤーでもあります。



さて、朝早くから汗を流す私たちを労ってくれたのは、五十名を超える登山客のみならず。なんと彼らは、松山離島振興協会と坂の上の雲フィードミュージアム活動支援事業で同窓の「伊予山の辺のみちを歩こう会」の面々。古いメンバーと旧交を交わしつつ、新たなメンバーから大いなる労いと感謝の言葉をいただきました。以前は、誰も登らなかつた山。地元の人さえも忘れかけていた宝。こんなに素晴らしい財産を見過ごしてはいけない。そんな思いで取り組んだこの数年。私たちの思いは、見事結実。結願の言葉をあてても、決してバチは当たらないと思います。多くの住民の願いと、多くの来島者の思い、小富士山の頂は大いに輝くことでしょう。上諏訪太社長の心意気でついに最終完成形を見た小富士山登山道に、ぜひ登ってみてください。

10/18 『瀬戸内探訪クルージング』のご案内

昨年、宮島へ上陸し、その道中、中世期の瀬戸内海の海上交通についてのうんちくをお伝えした『瀬戸内探訪クルージング』が、今年も下蒲刈島へと上陸することとなりました。下蒲刈島は、現呉市の島で、海上交通の盛んな時代に朝鮮通信使の立ち寄り処として栄えた島です。秀吉の朝鮮出兵時に一時途絶えた朝鮮国との交易も、家康の時代には復活し、江戸時代に下蒲刈島は隆盛を極めます。そして現代、その時代を彷彿とさせる催しが今なお引き継がれています。それが、「朝鮮通信使再現行列」です。毎年、10月の第3日曜日開催されるこの催しには、県内外から多くの観光客が訪れ、往時の歴史ロマンに思いを馳せるのです。

毎年、松山離島振興協会が、パートナーである石崎汽船さんをお願いして実施するこのクルージング企画。松山観光港を出港し、釣島灯台官舎等見学の後、下蒲刈島をめざします。開催は、10月18日(日)。集合時間は7時30分、解散は17時の予定。参加費は中学生以上5000円、小学生以下3500円です。お申し込みは石崎汽船 水野さんまで。電話951-0128。

韓流ブームの原点を見極めに、また隣国の文化を深く理解するためにも、ぜひ、ご参加ください。

【地域産業部】

極早生から始まり、早生、中手、奥手、完熟へとつながる愛媛みかんの各品種。最後は、まつやま農林水産物ブランド品のカラーマンダリンがトリを務めています。

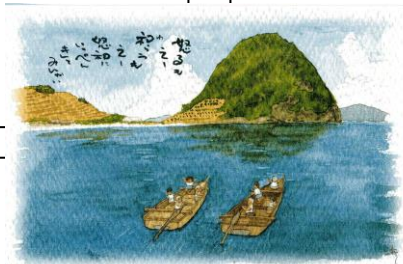
先発の紅マドンナ、せとかに続く松山期待の三男坊は、剥きやすさ、食べやすさはピカイチ。温州みかんをちょっと濃くした味わいで、子どもからお年寄りまで、食べ手を選ばない万能柑橘として、今後が大いに属望される有望品種なのです。

みなさん、ぜひ一度、ご賞味ください。

《お問い合わせ・お申し込み》

事務局長 俊成雅直

TEL997-2189



【観光振興部】

今回の瀬戸内探訪クルージングの目的地は下蒲刈島です。下蒲刈島は中世の時代から交通の大動脈であった瀬戸内海で、要衝とされた島の一つです。朝鮮通信使が拠点としたこの島には、潮の流れ、風の向き等海を航行するための道理や理屈の優位性がすべて備わっていました。こうした島の特性を今回のクルージングでもたっぷりとお伝えしたいと思っていますので、ぜひご参加ください。忽那諸島の応援団がさらに増えることを期待しています。

《お問い合わせ・お申し込み》

クルージング案内人 重松佳久

TEL090-4972-7140



【しまづくり部】

平成17年1月1日、私たちの興居島・釣島は、中島町6島と北条市1島を加えた松山離島9島として新たに世間に認知されました。内陸部から近距離のわが2島は、当時、本当の離島の宿命を味わっていなかったのかもしれませんが、ただ、時代は着実に少子高齢化、過疎化を地方に顕在化させ、その最たる存在としての島嶼部の成り行きを冷やかに見守っていました。

あれから10年。私たちは私たちになり、今の時代に見合った発展を遂げてきました。人々の見えざる努力。それを支える行政の力。協働の姿がここにあります。



《お問い合わせ・お申し込み》

副会長 山本土人

TEL961-2237

忽那諸島の最新情報はHPチェックがいちばん！

<http://island-matsuyama.com/>



☆ 松山離島振興協会は、会員のみなさんの会費によって運営されています☆

☆ あなたも会員になって、いっしょに活動しませんか☆